

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	幹線道路上で活動中、停車していた緊急車両に走行していたトラックが追突した事案
3. 体験した事例の中心的要素	幹線道路上に停車中の車両において急病人発生のため、救急支援活動として、ポンプ隊及び救急隊が出動した。 救急隊は、傷病者搬送のため現場出発し、ポンプ隊は、無人の車両が停車したままであることから、事案引き継ぎのため警察官の到着を待っていたところ、当該停車中の車両に走行してきたトラックが追突したもの。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・活動範囲の設定が狭いであったこと。 ・他の走行車両に対して、停車中の車両が存在することの周知不足。 ・災害現場における気象条件を加味せず、活動範囲を設定したこと。 ・通報時の発生場所と実際の発生場所が違っていたが、分離帯及び傷病者との接触を急ぐあまり、ポンプ車の部署位置を移動しなかったこと。(結果的には移動しなかったことにより接触を免れたが、通常の安全管理上の部署位置とは違っていた。)

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成31年2月8日 午後0時頃
2. 発生した当時の天候	雪
3. 発生した活動現場	屋外:車の往来が激しい国道上
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急現場活動中期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他:事案引き継ぎのため、警察官の到着を待っていた。
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○その他(当事者が4人以上の場合)	50歳消防司令補(隊長)、36歳消防士長(隊員)、23歳消防士(隊員)、42歳副士長(機関員)

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	ポンプ隊が、	通報内容と違う場所において、対象車両を発見し現場に到着した。	
経過2	ポンプ隊は、	三角コーンを設定し、活動範囲を確保したもののポンプ車の部署位置は変更しなかった。	
経過3	救急隊が、	現場に到着し、急病人であるトラック運転手を車内収容し、現場を出発した。	
経過4	ポンプ隊は、	無人のトラックが停車中であることから、事案引き継ぎのため警察官到着まで、現場で待機した。	
経過5	走行中のトラックが、	路面の凍結及び強風であったことも作用し当該停車中のトラックに追突した。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、事故にならなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

強風が吹いており、高潮により、路面が凍結しており、大型車両が風に煽られやすい状況だった。
--

【事故発生後の取り組みについて】

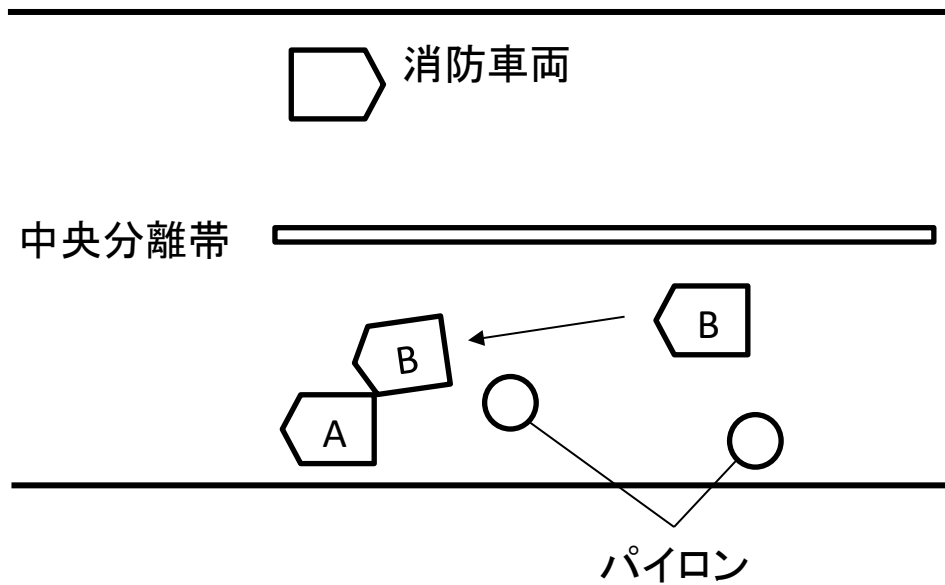


○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について



幹線道路上の車内での急病発生のため救急支援。A車両運転手は急病のため救急搬送された。消防隊は警察への引継ぎのため、消防車両内で待機していたところ、停車中のA車両(無人)に後方から進行してきたB車両が追突。当時の状況は、路面凍結及び強風。